

令和3年度 愛西市地域福祉計画評価委員会会議録（概要）

会 議 名	令和3年度 愛西市地域福祉計画評価委員会
開 催 日 時	令和3年8月17日（火） 午後2時00分から午後3時10分まで
開 催 場 所	愛西市役所 南館2階 会議室2-5
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	別紙のとおり
協 議 事 項 等	<ul style="list-style-type: none"> ●副委員長の選出 ●議題 <ul style="list-style-type: none"> （1）愛西市地域福祉計画の令和2年度評価書（案）について （2）その他
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍 聴 人 の 数	0人
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛西市地域福祉計画評価委員会委員名簿 ・ 愛西市地域福祉計画評価・検証方針（案） ・ 愛西市地域福祉計画の評価、意見（平成31年度）
審 議 経 過	別紙のとおり

愛西市地域福祉計画評価委員会委員

役 職	氏 名	所 属 等	備 考
委 員 長	原田 健三	愛西市社会福祉協議会長	
副委員長	鷺野 明美	日本福祉大学福祉経営学部 准教授	
委 員	八木 一	愛西市ボランティア連絡協議 会長	
”	難波 知里	愛西市教育委員	欠席
”	原口 浩美	愛知県津島保健所	欠席

委員以外に出席した職員等

氏 名	所 属 等	備 考
長谷川 努	子育て支援課長	
井戸田 悦孝	高齢福祉課長	
服部 芳樹	健康推進課長	
大野 敦弘	危機管理課長	
廣瀬 眞弓	学校教育課 課長補佐	
小澤 直樹	社会福祉協議会事務局長	

事務局

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
小林 徹男	松本 繁	田口 貴敏	中村 正幸	大川 雄也

審議経過

発言者	内容（概要）
事務局	<p>皆様、お揃いになりましたので、愛西市地域福祉計画評価委員会を始めさせていただきます。</p> <p>欠席者の報告 議事録をHPにて公開の旨報告 資料確認</p> <p>副委員長の選出 委員長の指名により副委員長に鷺野 明美氏</p>
委員長	委員長より挨拶
事務局	愛西市地域福祉計画評価・検証方針（案）に基づき内容説明。
委員長	事務局から説明のありました議題（１）について、何か意見、質問はありますか。
委員	高齢者見守り訪問について、訪問は誰が行うのか。
高齢福祉課	高齢福祉課で養成した高齢者見守り訪問員が行っている。
委員	訪問件数が減っているのは、コロナの影響で、電話やインターホンでの面談に変更し、対応しているからだと思うがどうか。
高齢福祉課	その通りである。
委員	今後、高齢者の見守りは、訪問に限らず、電話やどこかで待ち合わせるなど実施していくと良いと思うがどうか。
高齢福祉課	昨年度は、コロナの影響で何もかも中止であったが、現在はウィズコロナと高齢者のワクチン接種が進んでいる状況である。顔を見て話しをするという関係は、顔を見ないで話しをするのとでは、大きく印象が違い、気持ちも変わってくるため、そういった方向で進めていく予定である。
委員	社会福祉協議会が新たに運転ボランティアを養成しているが、その現状、今後の見通しをお聞きしたい。

社会福祉協議会	<p>運転ボランティアについては、昨年度から養成をしているが、参加者が5人以下の状況である。参加者には、安全運転講習会を実施し、技術的には問題ないと思うが、使用する車両と使い勝手の良い保険が無い状況であり、そこが手厚くなると、参加しやすくなるのではと考えている。利用者が困っていることで多いのは、①日常の買い物、②通院である。まだまだ養成段階であるが、具体的な事業化はそう遠くないと考えている。意識の高い方が参加していただいている状況であり、そこから広げていきたい。</p>
委員	<p>買い物難民について、買い物支援バスの利用状況と今後の見通しをお聞きしたい。</p>
社会福祉協議会	<p>買い物支援バスを利用できる方は、高齢者の方、高齢者世帯の方である。利用には、利用登録をしてもらい、登録した方の家の状況と希望の買い物先を何か所か記入していただき、それを基に毎月1回運行計画を立てている。買い物自体を楽しんでいただきたいということで長いコースと短いコースを設定している。長いコースは、ヨシヅヤ本店を通り、短いコースは、地元のスーパーや立田ふれあいの里を通るコースで、2つのコースを組み合わせで実施している。昨年度は、コロナの影響により長いコースは実施していない。登録者は増えているが、利用する方はコロナの影響で少ない状況である。利用者の問い合わせとしては、「免許の返納をしたが利用できますか」という問い合わせが多い。ケアマネージャーを経由して登録する人が結構いる状況である。</p>
委員	<p>ごみ出しの支援について、ごみ集積場所までごみを持っていけない人が高齢者を中心として今後出てくると思うが、その支援をする仕組みづくりが必要となるのではないか。この仕組みにより見守りが必要な人の安否確認の手段にも活用できるのではないかと思うが、今後の可能性についてお聞きしたい。</p>
高齢福祉課	<p>ごみ出し支援について、過去の介護のアンケート調査で、「現在は自分でごみを出すことができているが、この先自分がいつまでごみ出しができるか不安である。」という回答が結構あった。2025年問題、団塊の世代の方が75歳になり、急激に介護サービスの利用が増えてくる状況で、それまでに公的な支援を構築できないかと考えている。今後、廃棄物担当課と、実行に向けて話し合いを進めていきたい。地域でごみ出し支援や見守りができているところもあると聞く。そういったところは、なるべくその形を崩さないよう支援をしていくようにしたい。</p>
社会福祉課	<p>ごみ出しの支援事業として、市が現在実施しているものを挙げるのは難しい。ごみ出しの問題は、高齢者だけでなく、妊産婦やシングルマザー</p>

	<p>や引きこもり等への支援についても、準備をしていく必要があると考えている。第2期の地域福祉計画として新たな地域福祉計画を今年度作成する予定であり、重層的支援体制の体制づくりとして縦割りではない相談体制の整備について、計画にも盛り込む予定でいる。</p>
委員	<p>緊急通報システムの設置台数について、現在約300台で減少傾向であるが、なぜか。</p>
高齢福祉課	<p>年々減少している理由は、入所される方や、家族と同居される方、死亡等で撤去しているからである。</p>
委員	<p>窓口はどこで、設置の条件は。</p>
高齢福祉課	<p>窓口は、高齢福祉課である。設置条件は、まずNTTの固定電話回線が必要である。対象は、一人暮らしの高齢者である。ただし、自転車で買い物に行けるなど、元気な方は対象外である。民生委員からの聞き取りや職員のチェックシートによる面談を行い、課内の決裁判断により設置を決めている。</p>
委員	<p>緊急通報は、どこへ通じるのか。</p>
高齢福祉課	<p>消防署へ通報される。</p>
委員	<p>丈夫な方でもシステムがあると安心であるが。</p>
高齢福祉課	<p>一方的なお断りはしていない状況である。</p>
委員	<p>ボランティアや地域活動への住民参加に関して、退職者を対象とした講習会を開催するなど、ボランティアや地域活動に参加していただけるような仕組みづくりについてお聞きしたい。</p>
社会福祉課	<p>地域に根ざした既存の団体（老人クラブや子ども会など）の人数の減少が顕著になっている。核家族化や働き方の変化、高齢化などが進んでいるからだと考えられる。退職者に対しての講習会等は今のところ実施していないが、既存の団体の活性化や、退職された65歳以降を核とした地域づくりができればと考えている。</p>
委員	<p>災害のことについて不安に思っている方々が多い。災害時を想定した地域づくりや仕組みづくりを市として何か実施しているか。</p>
社会福祉課	<p>災害時に向けて、避難行動要支援者（社会的弱者）の名簿づくりをして</p>

	<p>おり、平時は避難訓練の際に同意をいただいた方のみ地元で情報提供し、避難訓練に活かしていただいている。また、緊急時の場合は安否確認のもとにすることで想定している。</p> <p>また、国から、避難行動要支援者名簿に加えて、個別避難計画の作成の提案がある。個別避難計画は、一人ずつの避難場所や誰が支援できる者かが書かれたもので、緊急時誰に助けを求めようかを明らかにするというものである。市は緊急時すぐに動けるわけでない状況で、防災面でも取り組みを進めていきたい。</p>
委員	全国各地で災害が起こっているが、愛西市でも起こる可能性がある。避難する際に参考となることはあるか。
危機管理課	まず、自分の命が大切である。避難をする際に、早めの避難をしていただくこと、そして、近年、広域避難をと言われているが、事前に避難できない場合は、近くの高い所や自宅の2階など垂直避難を心がけてもらいたい。
委員長	それでは、他に質問が無いようなので、各委員より総評をいただきたいと思います。
委員	<p>当市においては、これまで様々な施策が進められてきた。これらの施策をより体系的に整理したうえで、新たに必要とされている取り組みを検討する必要があると考えられる。</p> <p>また、住民の中には地域活動や市の活動をやってもいいという方がもっとおられると思う。そういう人たちが実際に、活動に参加できるようなきっかけ作りや仕組みづくりというものをうまくしていけたら良い。</p>
委員	会議等だけで机上の空論に終わることなく、現場に立って、市民に寄り添って仕事をしていただきたい。
委員長	これまで、評価の際の一つの基準として、評価・検証方針に各年度の実績の数値が示され、その増減をもって評価がなされる傾向にあった。これに関して、あらかじめ各項目に目標値を設定し、その数値に達しているかどうかによる評価も重要である。
委員長	続きまして、議題(2) その他に移ります。事務局何かありますか。
事務局	いただきましたご意見、評価をとりまとめたものを委員の方々へご確認していただき、ご署名をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。また、今回の評価を次期計画に反映をさせていただきたいと思ひます。

委員長	それでは、すべての議題が終了しましたので本日の会議は終了とさせていただきます。
-----	---